

## 「2023年度中国・浙江大学スプリングスクール派遣報告書」

京都大学理学部3年 筒井 涼輔

- ① 今回の派遣の前は、ただ漠然と、「留学をしてみたい、国際交流をしてみたい、面白そう」といった認識であった。今まで、こういった国を越えた交流をする機会がなく、なんとなくの憧れは抱けど、なんとなく、のままであった。  
今回の派遣の後ではより具体的に、そして強く留学や国際交流に関心を抱くようになった。実際に体験することは、かけがえのない経験であった。経験するからこそ、よりはっきりと、国際交流の良さ、に気が付いた。
- ② 海外での経験については、海外（中国）を見ることで、「日本」を相対化し、新たな視点で自国を見つめ直すことができた。特に、ちょっとした文化や価値観で、これを感じた。
- ③ プログラム内容については、浙江大学の本科学生と様々な国の留学生と交流できたことは、非常に良かったと思う。  
ただし、せっかく中国に留学しているのに、浙江大学の学生（中国人）と交流を行う機会がなかったのが残念に思う。自分から全く接点がない中国人に声をかけていかなければ、知り合う機会がない。このプログラムの主な活動は中国語の授業と放課後に4回あったフィールドワークだが、ここに中国人はいない。私はタイ人やベトナム人、日本人などとは仲良くなりやすかったが、中国人と交流をする機会がなかった。プログラムとして中国人と交流をする機会を設けてほしかった。  
一応ディスカッションの時間があったが、2週間目の火曜日では遅い。そこで知り合っても、日曜の朝に私たちは帰る、そして木曜日にはフィールドワークがある。浙江の学生にも予定がある。これではディスカッションの後に交流を設ける機会を設けるのが難しい。  
「回数を増やす」「早いタイミングで交流会を行う」の二つを留意するべきである。
- ④ 進路への影響については、私は元々欧米の院に進むことを考えていた。ヨーロッパ中心主義的な考えが無意識に根付いていたのかもしれない。しかし、今回、中国学生との交流で、彼らの優秀さ、中国の将来性、活力、成長を目の当たりにして、欧米以外の国についても、留学や院進を検討するようになった。